十島村教育委員会だより　令和５年１月号

さわやかトカラ情報

南北１６０㎞
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

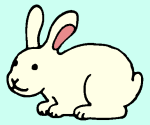
十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町１３番１３号
TEL099-227-9771

写真：R 5.1.9　「二十歳の集い」

「 新しい年を迎えて 」

十島村教育長　木戸　浩

明けましておめでとうございます。皆さん健康で新たな年を迎えられたことと思います。さて今年の干支は十二支で言うところの「卯年（うどし)」、ウサギに当たるわけですが、正確に干支を表すと「癸卯（みずのと・う)」です。



卯（うさぎ）は穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」。また、その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。干支は実生活において年以外にも時間や暦などを表すことや、一方で運勢や性格、相性などの占いなどにも使われます。干支が12種類の動物というのは常識ですが、なぜこの動物たちが選ばれたのか、その理由はあまり知られていません。「先着順で決まった」という昔話もありますが、それは当然おとぎ話で、実はもともと干支の十二支は動物ではなかったようです。季節に従って植物が変化していく様子を表す12段階、「滋」「紐」「演」「茂」「伸」「巳」「仵」「味」「身」「老」「脱」「核」が十二支のもとで、やがてこれらに音や韻が似ている動物に置き換わり、それがネズミに始まる12種類の動物になったという説もあります。

十島村教育委員会における毎年最初の行事が、成人の日に開催します「十島村　二十歳の集い」です。今年は、１月９日に実施いたしました。コロナウィルス感染症の関係で、残念ながら出席者数や内容を縮小せざるを得ませんでしたが、テレビ会議やZoomを使って、新しく二十歳になった皆さんには、村長からのお祝いのメッセージを始め、あたたかな雰囲気の中で会が行われました。

新型コロナは、まだまだ感染力が強く、マスクや手指消毒等気を付けなければならない点は多いですが、少しずつ平常を取り戻しているように思われます。私たちにできる身近な対応は、基本的な手洗いということになるようです。自分で自分を守るのは、しっかりとした手洗いということです。コロナを恐れずされど侮らずに、この一年を過ごしていきたいものです。

そんな中で、子どもたちは、南日本新聞への投稿などを通して、十島村の広報をしてくれています。いろんな視点から素直な気持ちで、自分たちの頑張りや友達とのかかわりを作品にして投稿し続けてくれています。全島で、子どもたちの「書く力」を伸ばそうと取り組んできたことを裏付けるかのように、作文コンクールで学校賞に選ばれたり、県作文コンクールや俳句でも入賞を果たしたりしました。作文だけでありません。絵画でも、南日本ジュニア美術展や家庭の日ポスターコンクール，各種の絵画ポスター展，最近では，海上保安庁図画コンクールでも特別賞を受賞しています。数々の入賞は、１００点を越えています。それは、子どもたちの挑戦してきた証しであり、先生方が子どもたちを伸ばそうとする指導の裏付けでもあります。３学期の始業式の時点での児童生徒数は、９９人とあと一人で念願の１００人に到達します。昨年度は、今頃は、１００人を越えましたが、少しずつ減り、９０人前後で推移していました。この中から、卒業式、修了式を終えると、何人かが島立ちをします。十島村で学んだ多くの経験を「生きる力」に変えて、一歩一歩これからの長い道のりを歩んでいってほしいと思います。そして十島で育った「たくましい心と体で」挑戦を続けていって欲しいと思います。

【海上保安庁特別賞授賞式】
【宝島小２年本名福竹さん】

子供のうた　七月四日掲載

生きられる

宝島小学校六年
田中　光結

命があるから
生きられる
うれしい時も
悲しい時も
生きられる
命がないと
気持ちもなくなる
たくさんの人が悲しむから
命をむだにしないで

【新聞に投稿】

令和４年８月１１日日南日本新聞「若い目」掲載
三島硫黄島学園７年　向井　彪悟

新しい島の中学生活

令和四年四月、僕は三島村の硫黄島に来た。それまでは十島村の宝島にいて、とても楽しい生活を送っていた。

小学校を卒業する一ヶ月前くらいに、母から電話が来た。「今と同じ島でもいいけど、他の島で新しいことに挑戦してみたら」と言われた。離れるのは寂しいけど、せっかくだから中学生になったら新しい島で新しい生活を送ろうと、決めて島探しをした。たくさんの島の中に一つの島を見つけた。ジャンベという太鼓っぽいけど太鼓っぽくない楽器だったり、港の海の色が赤オレンジ色だったり、青くてとてもかっこいいクジャクがいたり。たくさんの面白い情報がありワクワクした。その島が硫黄島だった。

検索して出てきた通り、クジャクがいたり、海が赤オレンジ色だったり、ジャンベの音色が響いていたりする。すてきなしまだなあと思いながら、調べた時には分からなかった新発見に出会っている。毎日がドキドキだ。

令和４年８月１０日　南日本新聞「若い目」掲載
谷山北中学校２年　林　優希

ありがとうブライアン

私が小学生の時、十島村の口之島でお世話になった外国語指導助手（ＡＬＴ）のブライアンが、令和四年八月十日アメリカに帰国した。

ブライアンは単身赴任だったが、いつも笑顔で元気いっぱいだった。英語の授業だけでなく、体育や昼休み、バドミントンなどいつも一緒だった。会話をすると「ユウキ　ナイス」と言ってくれ、英語に自信がついた。

四年間の島の生活は大変なこともうあっただろうが、バンドをしたり、釣りをしたり仲良く楽しく生活していた。

先日、私の家族とブライアンで鹿児島観光をした。フェリーに乗って大きく噴煙を上げる桜島を見て、垂水で海鮮丼を食べた。口之島で一緒だった校長先生にも会った。思い出たっぷりつくった一日だった。

アメリカでは夢をかなえるため、学校へ通うそうだ。家族には会いたいけど、口之島を離れたくないと言っていた。

私もブライアンに負けないようにがんばるぞ。今までありがとう、ブライアン。

子供のうた　七月二十一日　南日本新聞掲載

わたしのとうちゃん

諏訪之瀬島小学校一年
はまだ　あきな

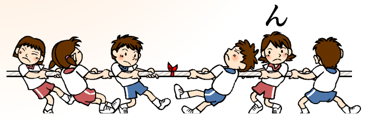
うしをがんばるところが
かっこいい
いっしょにあそぶと
おもしろい
おりょうりだって
おいしいよ
ぎゅうっとされると　うれしいな
とうちゃん、だいすき

子供のうた　十一月三日　南日本新聞掲載

うんどうかい

宝島小学校一年
まつもと　しおん

はしって　おどって
おうえんして
また　はっして　おどって
おうえんして
うんどうかいって
いそがしい
でもたのしい
がんばるぞ



子供のうた　七月九日　南日本新聞掲載

うれしいな

諏訪之瀬島小学校二年
よしだ　しょう

うれしいな　いい天気
みんなとサッカーできるとき
そうじで
ろうかがピカピカ光るとき
うしのてつだいがんばって
おとうさんに
「たすかるよ」って
言ってもらったとき

十　島　村　で　学　ぶ

【口之島で学ぶ】「口之島でできるようになったこと」

口之島小学校６年　児浦　彪威

ぼくが口之島に来て、三年が経とうとしています。口之島に来てから、たくさんのことができるようになりました。今回は、その中の三つのことを紹介します。一つ目は、あいさつです。今までは「あいさつに、何の意味があるのだろう」と、不思議に思っていました。とりあえずしておけばいいかなと、いつも適当なあいさつをしていたと思います。しかし口之島に来て、島民の方から「大きな声であいさつができてすごいね。」と言われるようになり、あいさつは自分も相手もうれしくなるものだということに気づきました。二つ目は、勉強です。ぼくは口之島に来て勉強が好きになり、いろいろなことに興味がわいてきました。特に算数と理科が得意です。算数や理科は「これはどうなんだろう」と疑問に思ったことを解決したり、友達の意見を聞いて「なるほど。」と思ったりすることがたくさんあります。

三つ目は、運動です。小中学生みんなで運動に取り組む中で、体を動かすことの楽しさに気づきました。口之島は、ぼくにたくさんのことを教えてくれる自まんの島です。自然が豊かで、島民の方々が優しく、とても温かいです。この三年間、大きく成長することができたので、口之島に来てよかったと思っています。

【諏訪之瀬島小・中学校からのメッセージ】

教　諭　月田　修一

諏訪之瀬島小中学校に赴任して１年と８か月、たくさんの『初めて』と出会い、あっという間に過ぎた気がします。まずは小中学校併設。同じ校内に小学生もいて、とてもかわいらしく、思わず笑顔になります。また小学校の先生方と共に学校行事などを企画準備していくと、小学校ならではのナイスアイデアに学ばせていただくことが多いです。

授業においては中学校の教師として３３年、初めて理科という教科を受け持ちました。子どもたちになんとか力をつけてあげたいと一から勉強する日々です。

部活動はずっとソフトテニス部に携わってきた私ですが、初めてバドミントン部の指導をしています。インターネットで桃田選手の試合を山ほど見ました。

本校は土日の部活はありません。これまでの学校では土日も練習や大会で走り回っていたので、急に土日にすることがなくなりました。魚釣りができない私は、この夏初めてサーフボードに乗ってみました。ボードの上で立つこともできず、１回で挫折。サップならできるかもしれないと思案中です。せっかく諏訪之瀬島にいるのだから、ここでしかできない何かに挑戦したいと思っています。

今年度は１６人の個性豊かな子どもたち、その保護者、里親、寮監の方々、島民の皆さんとも、去年の１年目より親しくさせていただいています。感謝の気持ちで残りの諏訪之瀬ライフを過ごそうと思います。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

修学旅行では引率の先生方に助けていただき、担当校としての役目を果たすことができました。感謝しています。